

令和5年度 転倒災害防止のための説明会

神奈川県労働局では、令和5年6月26日に川崎市、同年同月29日に藤沢市において、「転倒災害防止のための説明会」を開催しました。

この説明会は、近年「転倒」による労働災害が増加していることを踏まえ、転倒災害を減少させる目的で開催したものです。



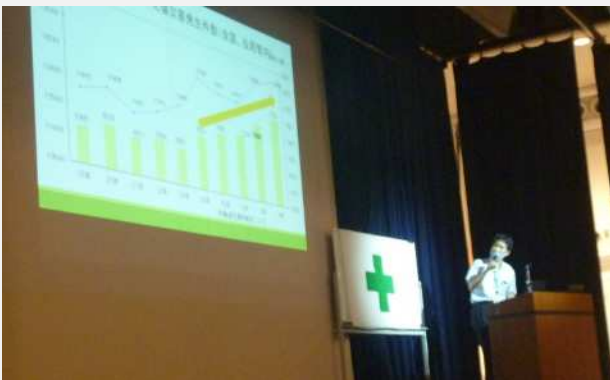
6月26日開催 川崎市産業振興会館

神奈川県労働局から

冒頭、神奈川県労働局（労働基準部長 加納圭吾）から、近年、転倒災害が増加し、労働災害全体の4分の1強を占めており、その削減が課題となっていること、及び、今年度からスタートしている第14次労働災害防止計画において「ハード面、ソフト面の両面から転倒災害対策に取り組む事業場の割合を2027年までに50%以上とする」という目標が盛り込まれていることを説明し、本説明会を契機に一層の転倒災害防止への取り組みを要請しました。



6月29日開催
藤沢市労働会館
神奈川県労働局 労働基準部長 加納圭吾



神奈川県労働局 安全課担当官

続いて当局担当官から、転倒災害の発生状況を説明し、年齢が高くなるにつれ転倒災害が増えていること、50歳以上の女性労働者で顕著であること、何もなかったところで転倒する可能性があることを説明しました。また、腰痛も増えていることなどを説明して危機意識を共有を図りました。



神奈川県労働局 健康課担当官

～ 事例紹介 川崎市産業振興会館 ～

JFEスチール(株)東日本製鉄所(京浜地区)



川崎市産業振興会館では、JFEスチール(株)東日本製鉄所(京浜地区)から、「安全基本行動」規範の実践や定着、通路の改善(照明、舗装、緩やかなスロープ)、滑りにくい安全靴の導入、A Iカメラによる注意喚起システムの導入、整理整頓、作業動線の明確化、体力作りと定期的なチェックなどの活動報告がありました。

6月26日



JFEスチール(株)
東日本製鉄所 京浜地区
発表者：山田順也 氏



～ 事例紹介 藤沢市労働会館 ～

NSKマイクロプレジジョン(株)藤沢工場



藤沢市労働会館ではNSKマイクロプレジジョン(株)藤沢工場から、ヒヤリハット活動や他工場の労働災害を自らの職場や自分に置き換える「自分事化」への取り組み、それらを基にした実際の活動事例などの活動報告がありました。

6月29日



NSKマイクロプレジジョン(株)
藤沢工場
発表者：佐藤信雄 氏



～ 転倒リスク可視化装置紹介 ～

UNTRACKED(株)



川崎市と藤沢市の両会場では、横浜国立大学発のベンチャー企業であるUNTRACKED(株)から、隠れた転倒リスクを「立位年齢」として見える化する装置及びその測定結果を踏まえた健康づくりの紹介がありました。

この装置は横浜国立大学准教授の島圭介氏の研究を実用化したもので、「ライトタッチ現象」を応用した全く新しい転倒リスク計測装置であり、筋力や体力だけでなく感覚機能に起因する真の転倒リスクを客観的に数値化するものとの説明がありました。

6月26日

UNTRACKED(株)・横浜国立大学
発表者：島圭介 氏

中央労働災害防止協会 ～ 体力チェックの実施方法体験～

川崎市と藤沢市の両会場では、特別講演で中央労働災害防止協会（田子あかね氏）から、加齢による身体機能の低下で生じる転倒リスクのほか、高齢労働者の安全と健康確保のためのガイドライン（エイジフレンドリーガイドライン）の体力チェックについて、同協会が作成した「転びの予防体力チェックシート」を活用し、実際に参加者が基本動作を体験しながらその実施方法を学びました。



中央労働災害防止協会の田子あかね氏の説明のもと、「エイジフレンドリーガイドラインの体力チェック」に関して、実際に参加者が基本動作を体験しました。

説明のあった各企業の発表資料については、[神奈川労働局HP](#)に搭載しました。

また、神奈川労働局では、転倒災害防止に向けた取組事例を広く収集して、HPで公表していきます。

事業者の皆様におかれましては、各企業の取組を参考にし、より一層の労働災害防止活動にご協力をお願いいたします。

問い合わせ先

神奈川労働局労働基準部
電話：045-211-7352（安全課）
電話：045-211-7353（健康課）